



議員改選後、新人議員を含む11名が一般質問で登壇

平成27年第2回定例会



このたび、本会議において、初の一般質問を行いました。当日は緊張の中、何とか質問

を終えることができました。

再生可能エネルギーの利用については、東日本大震災の福島第一原発事故以来、原発に依存しない電力供給が、我が国の直面している喫緊の課題です。

これに呼応して、各自治体が独自に再生可能エネルギーの活用に取り組んでいる現状を踏まえ、登別市における現状と今後の展開を把握するため、質問しました。

さらに、伊達市、洞爺湖町、壮瞥町は地中熱の利用を積極的に推進し、室蘭市は水素を利用した次世代の都市構想をまとめるなど、近隣の各自治体はそれぞれの地域特性を把握し、産業に生かす計画を着実に進めています。

私は、登別市の特性は膨大な地下エネルギーであることと認識していることから、地中熱をはじめ、温泉排熱を利用した温室栽培などの規模を拡大し、有効活用することが登別市の新たな産業創出につながるのではないかと提案しました。



本市が昨年実施した日常生活圏域二区調査によると、要介護状態になった主な原因の

1位は「高齢による衰弱」で、次に「骨折・転倒」が続いています。高齢になると、

ちょっとした段差につきますやすくなり、転倒して骨折し、要介護状態になったり、寝たきりになることも考えられるため、介護予防対策の一環として、高齢者が住む住宅をバリアフリー化する際に費用の一部を助成する考えがなかったと提案しました。

また、高齢化が急速に進む中、介護・医療と連携して高齢者を支援するサービス付き住宅の確保が重要になる一方、供給が進んでいないのが現状です。このため、今後、サービス付き高齢者向け住宅を拡充する考えがなかったと提案しました。

さらに、認知症高齢者の徘徊は大きな社会問題となっており、いかに早く発見できるかが重要なカギであることから、今後における「はいかい高齢者等SOSネットワーク」の取り組みについて確認しました。



健康とは何かと考えたとき、WHO憲章前文には「健康とは、病気ではないとか、弱って

いないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」と定義されています。

私は、自分の居場所と生きがいを実感でき、人々が支え合い、思いやりの持てる地域社会の実現を目指し、登別市が急速に高齢化する社会を迎えるに当たって、早急な対応を必要とすることから、高齢者の心の健康と老々介護を取り巻く環境について質問しました。

高齢者の心の健康を取り上げた理由として、加齢とともに抑うつ状態の傾向が見られるという統計があります。心の健康については、表面化が難しい問題ではありますが、今後、該当者の増加が考えられることから、地域包括支援センターに心の健康の専門家配置することを提案しました。

また、老々介護を取り巻く環境の中で、在宅介護における介護者の時間的拘束や肉体的、精神的負担に対する支援体制について、市の考えを提案しました。